日本經濟史の研究今なほ草創の狀態にあるは其學問の立場研究方法の不備及び研究材料の不整頓に基因する事多かるべし本書は其等の缺陷を滿さんがために編纂せられたるものにして第一章に於ては經濟史と他學科との關係を說き經濟史と歷史の經濟的說明の差異等を明かにし日本經濟史とは要するに我國に於ける經濟事實の史的研究なれども其の窮極の目的は經濟發展の一大理法の發見にありとし、第二章にありては日本經濟史研究の發達を略述し第三章に於て其の研究の必要を高稱し第四章に於ては其研究の往時に比して極めて容易になれるを指摘し第五章には日本經濟史研究の方法を說き第六章には日本經濟史研究の材料を擧ぐ最後は著者の最も努力せる部分にして頁を費す事實に約二百七十に及べり第一部總覽は書目索引解題に分ち、第二部資料は普通參考書、材料集、叢書論集に分ち、第三部論著は舊時の論著及び維前後の論著洋書一班に分ち更に種類によりて細分し。日本經濟史研究の材料を或は解題し或は內容一班を示して過去に於ける關係論著は勿論史籍日記史料等を網羅したるものにして丁寧親切を極め最後に附せる書名索引と共に斯學入門者は勿論一般史家のためにも非常に便宜を與ふるものなるべし菊版四七八頁、外に索引六〇頁、（內外出版株式會社發行、價、四五〇）〔中村〕

● W. H. Mackean, Chistian Monasticism in Egypt to the close of the Fourth Century. (London, 1920)

本書は百五十餘頁に過ぎざる小冊子なれども從來類書殆ど絕無とも云ふべき埃及に於ける基督敎修道生活の起原を說きしものなれば此方面の研究者にとりては有益なる著述たるを失はず先づ基督敎徒以外の諸邦民間に於ける宗敎生活に現れたる遁世思想を一瞥してその基敎修道生活に及ぼせる影響如何を觀それより埃及の地に發生せるモナスチシズムの起原 Eremites, Cenobites 二派の生活樣式修道僧の性質面目を說き最後に其流風の傳播弘布せる經路を概述し居れり著者は相當に關係史料を涉獵し居れるやうなれども記述は簡易を旨としたれば學術的價値は元より低きを免がれず嘗て本誌上に紹介せるウークマン氏の好著「修道思想の進化」と相俟つてモナスチシズム研究に入らんとするもの、好指針たるを得ん

●Arthur Hassall, European History, chronologically arranged, 476–1920, New Edition' (London, 1920)

Hassall 氏の歐洲史年表の初版は一八九七年に出で爾來屢々改訂增補を觀たるが最近の新版は更に世界大戰結了後の一九一九年六月迄を追加して公刊せらるゝに至れり大戰期の紛糾を極め居れる歐洲政界の事件顚末を矢張本書從來の樣式を追ひ獨逸東南北歐洲諸國英吉利佛蘭西の四方面に適宜分屬せしめ簡明なる記事を年次順に掲げしは一般學修者を益すること多大なるべしと思はるゝなり本來この年表は中世以降の歐洲史を國別又は地方別の四區劃に分ち記事比較的詳密なる上卷尾に諸戰役摘要王室系圖帝王表を附したるものなれば讀書子に絕えず利便を供する點に於いて其編纂法は類書中優秀なるものに屬すべし然しながら近世期の部に入りて獨英佛の三區劃に對し爾餘の東、南、北歐洲諸地方の事件を一區劃の下に併記せるは極端なる便宜主義に流れしものといふべく聊か亂雜の嫌ひなきにあらざるなり〔以上植村〕

●熊野新宮手筥と檜扇

東京美術學校工藝史研究室の研究報告第一輯にして體裁は菊版和裝横綴、玻璃版六十五枚、本文五十五頁より成る同學講師香取秀眞氏の實地に就いて撮影せる兩遺品の寫眞を主とし五六の他の寶物を加へこれに對する同氏の解說とも云ふべき「熊野まゐり」と六角紫水氏の「手筥の蒔繪に就いて」なる一文とを載せ別に櫛笥一覽表と前年發見せる明德元年の熊野新宮神寶目錄とを以てせり香取氏の文は紀行文體なるを以て寶物類の精彩なる研究を是れに求むること難きも平易なる間に興味ある見解を示す處少なからず高尙なる案內記と見るべしまた六角氏の文は蒔繪手法の沿革を概說して本新宮の手筥の占むる位置を說ける小文なり南北朝より足利初期の遺品として蒔繪の系統上重要なる此等の遺品も土地の遠隔の爲從來調査未だ全からざりしが今ま本冊所收の寫眞に依つて其の性質を窺ひ得べく工藝家の好參考たらむ其の神寶目錄は同社の寶物研究上重要なる資料にして此の方面の研究者の注意を惹くものなり（巧藝社發賣、六、五〇）

●正倉院樂器の調査報告